

号外



民主党プレス民主編集部

東京都千代田区永田町 1-11-1

TEL : 03-3595-9988 (代表)

連絡先 :

民主党静岡県参議院選挙区第3総支部

静岡県静岡市南町 10-6 村上駅南ビル 703

2004年11月号



藤本祐司

自然災害の連続発生

臨時国会が始まる直前の10月8日に、50年に1度の超大型の台風22号が伊東市や伊豆市などを中心に甚大な被害をもたらした。その後23号が来襲し、さらに追い討ちをかけるように、新潟県中越地域に大地震が襲った。わずか2週間の間に3度の大規模な自然災害が発生した。このような連続した自然災害は、私の47年の人生の中でも極めて稀な出来事であると思う。被災された皆様にあらためてお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方々とそのご遺族に対しましては謹んでお悔やみを申し上げます。

私たち民主党静岡県連では、台風22号災害の復旧・復興に関して、渡辺周衆議院議員を本部長とする災害対策本部を10月12日に立ち上げ、防災担当大臣をはじめ、国土交通大臣、農林水産大臣など6大臣に対して迅速な対応を要請した。また、新潟県中越地震に対しては、細野衆議院議員事務所を核として、各議員事務所が現地でのボランティア活動に参加、義援金募集活動を各街頭で呼びかけることを決定した。

藤本祐司事務所としても、これらの災害に対して、ボランティア活動、街頭活動を実施する。現時点で日程が決まっているのは、11月14日(清水町、三島駅)、15日(静岡駅周辺)、21日(静岡市内)、22日(清水駅周辺)の街頭演説・義援金募集活動である。

緊張した初体験の委員会質問

臨時国会は10月12日に開会されて、3週間余経った。私は去る10月29日に「沖縄・北方問題に関する特別委員会」で質問に立った。初めての質問であり、雰囲気も通常の会議とは異なっているため、緊張しなかったといったら嘘になる。質問時間は30分。正直、最初の15分は何を話していたか、あまり記憶にない。後でビデオの確認したところ、半分は質問ではなく持論を展開していただけであった。後半の15分は、時間が徐々に迫ってきていることばかり気になって、追求すべきところも「さらっと」終了してしまった感がぬぐえない。

当日は、木俣委員長(愛知県選出)が風邪で声が出なかったため、急遽、筆頭理事の我らが榛葉議員として、委員会を采配した。ご自分で質問にも40分立ち、その質問も迫力があり、お見事であった。今回は、まさに『榛葉賀津也デー』であった。

この委員会は、小池百合子沖縄・北方担当特命大臣と町村外務大臣が所管の委員会である。私の質問時間があっという間に終わった原因の一つは、小池大臣がキャスター出身で、おしゃべりであることを考慮していなかつ



10月29日 委員会で質問に立つ

たからかもしれない。町村大臣は、たいへんお疲れの様子であった。というのも、イラクで拘束され、殺害された香田証生さんの問題でほとんど眠っていない状態であったようだ(委員会は香田さんが拘束された翌々日)。

いずれにしても、今回は、初めての質問ということを加味しても、まあせいぜい50点くらいだった気がする。「習うより慣れる」のように思えるので、今後も積極的に質問に立ちたい。

政治活動に対する基本姿勢

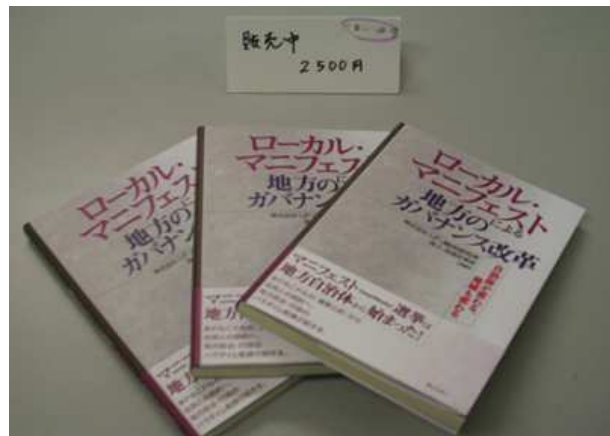
そろそろ国会にも慣れ、勝手も徐々にわかるようになってきた。やっと、議事堂で迷子にならなくても済むようになった。このあたりで、一度、私の政治活動に対する基本的な姿勢について触れておきたい。

社会は大きく、しかもスピーディに変化している。世の中の変化を先取りしなくては落ちこぼれてしまう民間シンクタンクに15年間籍を置いていた私は、古いビジネスモデルに頼ることが、いかに危険であるかを肌で感じてきた。過去の成功体験や過去の発想にとらわれないことが、次の成功へのステップである。政治の世界も同様で、過去の体験や活動にとらわれていては、何も新しいことは生まれないと私は思っている。だからこそ、過去の成功体験が豊富な自民党では、社会変化に対応した新しい政治を築くことができないと確信している。

私は、政治の世界に対しては、しがらみも既成概念もない。私は、失うものはさほどないと思って参議院選挙に出馬したのであるから、守るものはすでに存在していない。つまり、私は、誰よりも変化に立ち向かう勇氣を持てる環境にあり、その条件を有していると思っている。選挙期間中も、新しい政治を作りたいという支援の声が大きかった。新しい政治を作るには、過去にとらわれてはいけな。過去を一旦否定するところから始めることが必要であるとも思っている。

また、参議院議員としての私の存在価値を見誤らないようにするにはいけないとも思っている。無理矢理、特異な行動をとるほどのあまのじゃくではないが、自分が考える理想に向かっては、妥協するつもりも迎合するつもりもない。藤本祐司が、藤本祐司である意味をよく考えて活動していくつもりである。普段の活動についても、なんとなくそう思うから行動する、今までやっていたからこれからは同じようにやる、あるいは、みんながやっているからという理由だけで行動するのではなく、立ち止まって自分自身が納得してから行動するようにしたい。一つ一つの活動に関して、一旦疑ってからその活動の本来の意味を捉えなおして行動することを習慣づけることが大切であると思う。現状を疑わな

いことは、思考停止を意味する。可能な限り科学的あるいは論理的根拠に基づいて、本来の政治活動はどうあるべきかという本質を考えて判断したい。言ってみれば、政治活動のPDCAを実行していく（PDCAは、企業の経営手法の1つである。大雑把にいうと、PDCAとは、計画を立てて、その計画に従って行動し、その行動を評価、チェックしたうえで、修正、変更を加えていくこと）。しばらくは、試行錯誤が続くであろうが、早い時機に自分のスタイルを築きたい。幸い、参議院は解散がないため、6年間じっくりと政治を行うことができる。衆議院と異なり、計画を立て、その計画に従って行動ができる。今年いっぱい、基礎インフラ（事務所の体制づくりや基本ルールづくりなど）を整備し、計画を立てる時期であると認識している。短期計画（1年）と中期計画（3年）を策定し、藤本祐司スタイルで活動を進めていきたいと考えている。



政治に対する私の基本姿勢は、この7月末に出版した「ローカル・マニフェストによる地方のガバナンス改革（UFJ総合研究所編著）」の序章（私が執筆）を参考にして欲しい。その中身を読んで、理想論だと思う方々がいらっしゃるかもしれないが、その理想はすでに現実に近づきつつあり、有権者の意識は大きく変わってきていることも事実である。なお、この本は、一般の書店でも購入できます（静岡事務所と国会事務所でも販売しています）。出版社は、「ぎょうせい」。価格は2,500円です。三重県知事の北川正恭氏（現早稲田大学大学院教授）へのインタビューも掲載してあります。売り上げにご協力を。